

「半田銀山」テーマにシンポジウム

半田銀山の価値を再発見するシンポジウムが11月10日、町内各所で開かれました。五代友厚が1874年（明治7年）に半田銀山を再興してから150年になる節目の年を記念し、催しました。

五代友厚の名誉回復を半田銀山で公害対策

羽原 顕三さん／上村 修三さん



五代は「悪徳商人」とのイメージがありましたが、これまでの研究で誤りであることがわかりました。

五代は半田銀山の操業に当たり、稲作への悪影響を防ぐため、排水を浄化する沈殿池を造ったり、稲作期間に工事を休んだりしていました。地元の農民側とは1876年に締約書を交わし、公害防止協定の先駆けといえる内容のものでした。1980年代に足尾銅山鉱毒事件が表面化するより前に対策が講じられていました。

五代と渋沢を比較五代を知ってほしい

大森 美香さん



西の五代友厚、東の渋沢栄一と言われていた2人を比較すると、渋沢が国内で事業を展開する中、五代は海外にも目を向け、さまざまな活動をしていました。そんな中、渋沢は長生きしましたが、五代は短い生涯だったため、五代の功績が分かりづらかったのかもしれません。

五代に関する新しい史実は、いろんなことが見つかると思うので、今後、五代のことをもっと皆さんに知ってほしいと思います。

曾祖父ゆかりの地・桑折半田銀山舞台に漫画を

安彦 良和さん

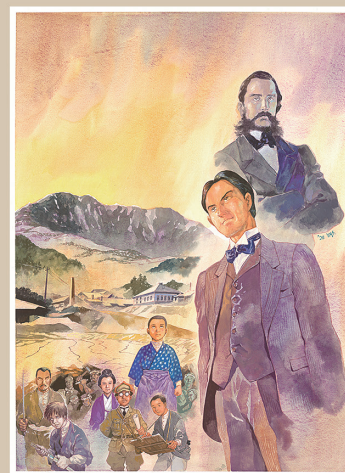


私の曾祖父は、半田銀山で絵図面師をしていたゆかりがあり、自分のルーツは半田にあると思っています。桑折町は、自然が豊かで、とてもすばらしいところですね。五代と半田銀山について調べていると、五代は足尾銅山の鉱毒が表面化する10年も前に、半田銀山で鉱毒対策をしていました。これにはびっくり。

今回のシンポジウムをきっかけに今後、半田銀山を舞台にした漫画を描こうと思っています。

安彦さん書き下ろしのポスター原画

右下が五代友厚、中央下で画板を持つ青年が安彦さんの曾祖父、その上のかすりの着物を着た少年が八代目早田伝之助、右上は大久保利通をそれぞれイメージしたという。



▲学習の成果を堂々と発表した（写真左から）佐藤さん、松山さん、武藤さん、田中さん、本田さん

半田銀山について学び、成果を発表

こども歴史案内人を務めた小学6年生5人が、半田銀山の概要を紹介し、町をPRしました。

登壇したのは、醸芳小学校の武藤有希さん、半田醸芳小学校の田中彩瑛さん、本田麗奈さん、睦合小学校の松山愛璃亜さん、佐藤結莉菜さん。5人は、五代友厚の功績や半田山自然公園の魅力について発表。「昔の人たちが残してくれた貴重な歴史と豊かな自然をこれからも守っていきたい」と締めくくりました。

児童らは、10月から現地での銀山の坑口見学や勉強会を通して半田銀山について学び、本番に臨みました。

り組んだ農作物被害への不安を払拭する環境対策と住民協定について報告しました。

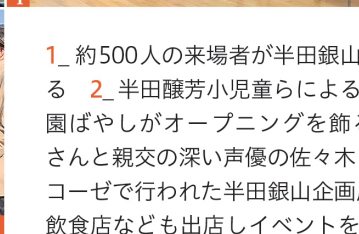
同日は、半田銀山祇園ばやしによる演奏と、やまがた愛の武将隊による演舞、半田銀山企画展も開催。パステアも催され、県内外から80人が参加し、半田銀山中舗坑口や史跡公園などを巡りました。

シンポジウムには、五代友厚顕彰会（大阪）の羽原顕三さんと上村修三さん、脚本家の大森美香さん、漫画家の安彦良和さんが、それぞれ登壇。県内外から歴史ファンら約500人が来場しました。

特別トークとして「機動戦士ガンダム」のキャラクターデザイナーを手掛けた漫画家の安彦さんが登壇。安彦さんの曾祖父が半田銀山で絵図面師をしていたゆかりがあり「自分のルーツが半田にあった」と語った上で、半田銀山を舞台にした作品を描く構想を明らかにしました。伊達市梁川育ちの俳優佐々木るんさんが進行役を務めました。脚本家の大森さんは、五代と同世代で活躍した渋沢栄一を比較し、魅力を語りました。五代友厚顕彰会の羽原さんと上村さんは、五代が半田銀山で取



6・7_ スタディツアーでは、町歴史案内人が説明。女郎橋が残る史跡公園や中舗の坑口などを見学 8・9・10_ やまがた愛の武将隊による演武とトーク「上杉景勝と半田銀山」、甲冑なりきり体験、純銀蒔絵体験 11_ 安彦さんのサイン会



1_ 約500人の来場者が半田銀山の歴史に迫る 2_ 半田醸芳小児童らによる半田銀山祇園ばやしオープニングを飾る 3_ 安彦さんと親交の深い声優の佐々木さん 4_ イコーゼで行われた半田銀山企画展 5_ 町内飲食店なども出店イベントを盛り上げる